

○ 他のプロジェクトとの連携促進

A O I プロジェクトやファルマバレーブプロジェクトなどの先行する先端産業創出プロジェクトと連携し、相乗効果を発揮する仕組みを構築します。

○ M a O I 機構の運営

プロジェクト運営の中核となる推進機関として（一財）M a O I 機構を運営します。

M a O I 機構は、M a O I フォーラムの運営、ライブラリーやデータベースの管理運営、ワンストップ窓口など一貫した研究者サポート、イノベーションに向けたマッチングや事業化を目指す企業を支援します。

○ 他のプロジェクトとの連携促進

（同左）

○ M a O I 機構の運営

（同左）

○ 新「駿河丸」を活用した海洋微生物資源等の採取支援

新たに建造した第5世駿河丸（令和4年2月竣工）及び、駿河丸に装備された水深2,000mまで対応可能な多項目水質計や採水器、水深500m耐圧の水中ドローン等を活用することで、微生物や環境DNAなど駿河湾の深海に関する調査研究を推進します。

【図表3-3】

MaOI-PARCを中心としたネットワーク型の拠点形成



駿河湾のリアルデータを収集・活用するデータプラットフォームをMaOI-PARCが中心となり構築し、ネットワーク型の拠点形成を目指す。

MaOI-PARC (清水マリンビル2階)

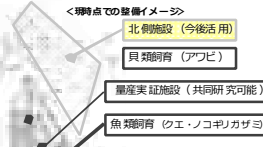
プロジェクトの中核施設・データプラットフォーム拠点
所在地 清水
敷地面積 6,200㎡
令和2年度：設計
令和3年度：改修工事、開所（仮）

共同ラボ
大学等が利用できる微生物培養等可能な研究設備
微生物ライブラリーデータベース
交流スペース



温水利用研究センター沼津分場

水産資源増大のための種魚の増産、親魚養成及び量産実証の研究拠点
所在地 沼津
敷地面積 9,122㎡
令和2年度：詳細設計
令和3年度：工事着手
令和5～6年度：工事完了見込



魚種(単位)	現状生産数	整備後の想定生産数
アサビ 6,200～8,640円/尾	2.1万尾	45万尾
クエ 3,715～4,504円/尾	0～17万尾	16万尾 (28万尾)
ノコギリガサミ 2,501円/尾	9万尾	80万尾

※整備後に沼津分場で確立した生産技術を本所に展開した時の全量の実生産見込

【図表3-4】

MaOI-PARCを中心としたネットワーク型の拠点形成



戦略Ⅳ 研究開発領域の重点化

1 戦略の基本方向

マリンバイオテクノロジーは基盤技術として、多様な産業分野に展開できる可能性を有していますが、特に産業応用の可能性が高い分野に重点化する必要があります。このため、「マリンオープンイノベーションプロジェクトにおける研究開発・産業応用の基本方針」に基づき、企業の集積など静岡県に優位性がある「水産」、「食品」、「創薬」等を具体的な産業分野として設定し、地方創生交付金等を活用して研究開発を支援します。

戦略Ⅳ 研究開発領域の重点化

1 戦略の基本方向

(同左)

2 主な取組

○ 研究開発の重点方向の設定

「マーケットインの視点に立った、本県産業の成長・発展につながる研究開発」、「海洋分野における国際的な課題解決に資する研究開発」、「健康寿命の延伸に貢献する研究開発」の3つのテーマと、「最新の技術や知見の導入」、「本県の『場の力』の活用」、「データ駆動型」の3つの方向性を組み合わせた「重点方向」に基づいた研究開発を促進します。

○ 各産業分野への展開

水産分野では、「バイオテクノロジーの活用による種苗生産・養殖技術の開発」や「安全・健康で美味しい魚、人々の健康につながる魚などブランド力のある魚の開発」などを目指します。

食品分野では、「海洋由来の微生物や機能性物質を活用した、魅力的な機能性食品・加工食品等の開発」などを目指します。

創薬分野では、ファルマバレーセンター、静岡県立静岡がんセンター、静岡県立大学等の機関とも密接に連携し、「海洋生物由来の新規機能性物質を活用した医薬品・化粧品等の開発」などを目指します。

この他、国立研究開発法人 海洋研究開発機構（JAMSTEC）や独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）等の機関と連携し、「海洋プラスチックごみの課題解決への貢献」、「農業と水産業の連携（県産農作物を活用した魚のエサの開発、陸上のバイオマス資源の水産業への活用等）」、「微細藻類の産業への活用」など、その他の分野へも展開をしていきます。

2 主な取組

○ 研究開発の重点方向の設定

（同左）

○ 各産業分野への展開

（同左）

○ 各産業分野共通の研究開発基盤の整備

上記に加え、「駿河湾等の海洋生物資源や環境データの収集（モニタリング）・蓄積・活用」や「マリンバイオ関連産業の市場動向や経済波及効果等の把握」など、各産業分野にまたがる基盤整備に係る研究にも取り組みます。

○ 短中期と長期の研究開発テーマの両立

短中期で成果が見込まれる食品・水産分野、長期的に取り組む必要のある創薬分野など、長短のスパンの研究開発テーマを同時並行で推進します。

○ シーズ創出研究の実施

産業振興に繋がる本県独自のシーズを創出するため、「マリンオープンイノベーションプロジェクトにおける研究開発・産業応用の基本方針」に基づき、県公設試による研究開発及び大学・研究機関等への委託研究を実施するとともに、定期的にシーズ創出研究の成果報告会を開催し、事業化への移行を促進します。

○ 各産業分野共通の研究開発基盤の整備

(同左)

○ 短中期と長期の研究開発テーマの両立

(同左)

○ シーズ創出研究の実施

(同左)

○ 資源回復枠の創設

静岡の海の豊かさを保全・回復するため、水産資源回復に資する研究を実施します。

【図表 3-4】 シーズ創出研究委託の概要

区分	内容
委託対象	法人格を有する大学等研究機関(企業又は県研究機関とのコラボも対象)
委託金額	上限10,000千円/年
期間	3年以内

【令和元年度 採択テーマ】

研究テーマ	提案者(協力者)
マダイ種苗生産における仔魚の疾病(腹部膨満症)関連細菌の同定	早稲田大学 (県水産技術研究所)
キンメダイの飼育技術の構築	東京海洋大学 (県水産技術研究所)
静岡県産魚類由来成分による失明疾患の制御に関する研究	慶應義塾大学 (静岡大学) (県水産技術研究所)
深海環境において生分解性を示すバイオプラスチックの構造探索	東京工業大学 (県水産技術研究所)
駿河湾由来のカロテノイド生産微生物の探索とサプリメント開発への応用	静岡県立大学 (県工業技術研究所) (はごろもフーズ(株))

【図表 3-5】 シーズ創出研究委託の概要

区分	内容
委託対象	法人格を有する大学等研究機関(企業又は県研究機関とのコラボも対象)
委託金額	上限10,000千円/年
期間	3年以内

採択	研究テーマ	提案者(協力者)
令和元年度	マダイ種苗生産における仔魚の疾病(腹部膨満症)関連細菌の同定	早稲田大学 (県水産技術研究所)
	キンメダイの飼育技術の構築	東京海洋大学 (県水産技術研究所)
	静岡県産魚類由来成分による失明疾患の制御に関する研究	慶應義塾大学 (静岡大学) (県水産技術研究所)
	深海環境において生分解性を示すバイオプラスチックの構造探索	東京工業大学 (県水産技術研究所)
	駿河湾由来のカロテノイド生産微生物の探索とサプリメント開発への応用	静岡県立大学 (県工業技術研究所) (はごろもフーズ(株))
令和2年度	海洋細菌の持つ生理活性を利活用する研究	高知大学 (国立感染症研究所)
	動画撮影とAI認識による駿河湾サクラエビ漁業支援システム開発	東海大学 (県水産・海産技術研究所) (東京海洋大学) (静岡県養殖クラスター協議会) (ほかに)
令和3年度	サクラエビの初期生活史の解明および受精卵の凍結保存技術の開発	静岡大学 (県水産・海産技術研究所)
	海洋環境ワイヤレスモニタリングのための微生物燃料電池の開発	東京工業大学 (県工業技術研究所)
令和4年度	低酸素応答制御機能を持つ静岡県産魚類由来成分の探索と疾患制御に関する研究	慶應義塾大学 (静岡大学) (県水産・海産技術研究所)
	内浦湾の環境モニタリングによるマアジのへい死メカニズムの解析	慶應義塾大学 (株)MzLinux(ほかに)